

中小企業経営者の実態

FOR SOCIAL VALUE

—BLUE REPORT— *mini*

10月号

新型コロナウイルス感染症と中小企業⑤

新型コロナで変わる働き方

(実施期間 2020年6月9日～9月30日)

2020年10月30日

フォーバルグループ編集

<アンケート内容と結果>

Q. 新型コロナウイルス感染症の影響はしばらく続くといわれています。今後、社員の働き方や職場環境は変わりそうですか？

「すでに変わっている」 353社 (28.5%)

「変わると思う」 330社 (26.6%)

「変わらないと思う」 452社 (35.5%)

「わからない」 104社 (8.4%)

(n=1239)

Q. 「すでに変わっている」「変わると思う」と回答された方に質問です。具体的にはどんなことですか？（複数回答可）

「多様な働き方を導入した（する）（時差、フレックス、在宅、その他）」

374回答（回答企業の54.8%）

「テレワークを定着させた（させる）」 296回答（同43.3%）

「会議や打合せはリモートが可能に」 266社（同38.9%）

「よりIT化を進めた（進める）」 240回答（同35.1%）

「職場面積を削減した（削減する）」 36回答（同5.3%）

「雇用者数を増やした（増やす）」 27回答（同4.0%）

「雇用者数を減らした（減らす）」 24回答（同3.5%）

「その他」 52回答（同7.6%）

(n=683)

新型コロナで変わる職場環境や働き方

新型コロナウイルス感染症への対策として外出自粛や飲食店などの営業時間短縮などが続いたこの半年、企業活動にも変化がみられるようになりました。

出社しなくても自宅などで仕事ができるテレワークには、多くの企業が注目しています。それにあわせて、このタイミングでIT化をこれまで以上に進めているケースもあるでしょう。新型コロナの発生は、こうした新しい職場環境づくりや、新しい働き方の導入につながっています。また、これまで働き方改革の推進で挙げられていた課題の解決につながっている側面もあります。

このレポートは、新型コロナウイルス感染症の発生により、いま中小企業の職場環境や働き方にどんな変化が起きているのかについて、調査を行い、その結果をまとめたものです。

1. 新型コロナで職場環境や社員の働き方に変化はあった？

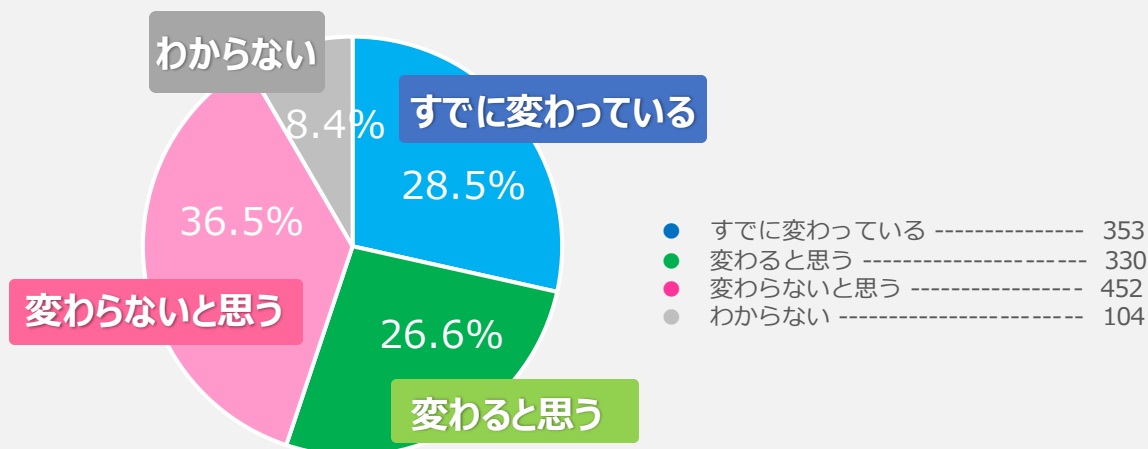
●新型コロナで職場は？ 変化・変化なしで2分する状況

新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちの生活様式を変え、さらに企業活動にも影響をもたらしている。感染予防の観点からテレワークが推奨され、ビデオ会議ツールの導入が進み、また働き方の多様性にも注目が集まっている。

フォーバルグループでは、コロナ禍における中小企業の働き方や職場環境の変化についてアンケートを行った。まずは変化の有無について聞いた結果が以下のグラフである。

Q. 新型コロナウイルス感染症の影響はしばらく続くといわれています。今後、社員の働き方や職場環境は変わりそうですか？

n = 1239



社員の働き方や職場環境について、「**すでに変わっている**」と回答した企業は**353社（28.5%）**であった。同ウイルスの拡散によりテレワークなどへの注目が集まってから約半年、現状では3割弱の中小企業が、何らかの変化に直面していることがわかる。

また、現状では変わっていないものの「**変わると思う**」と回答した企業は330社（26.6%）、「**すでに変わっている**」と合わせると55.1%となった。一方、「**変わらないと思う**」と回答した企業は**452社（36.5%）**であり、コロナ禍において働き方や職場環境に変化が起きていると言われる中、現状では「**変わらないと思う**」と回答した企業が**最多**となった。

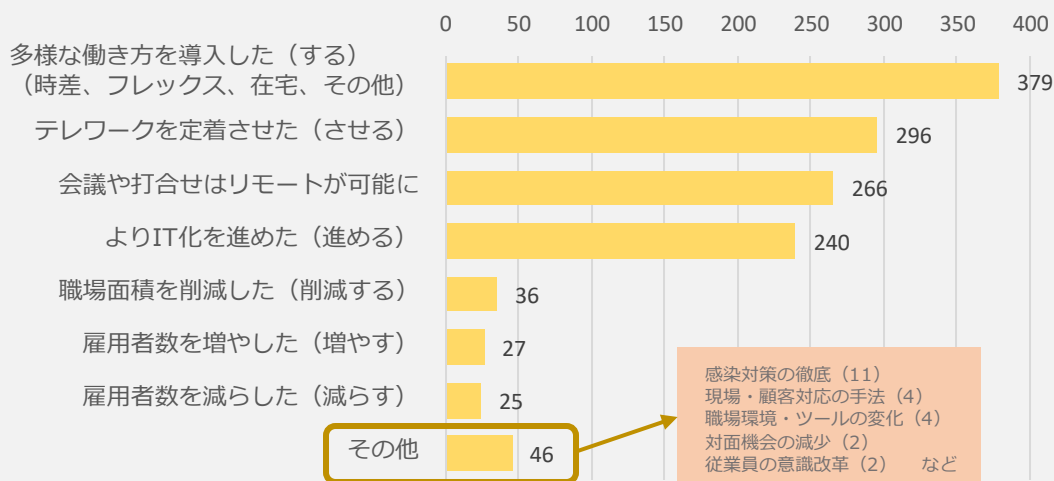
●変化に直面する企業：多様な働き方やテレワークなどの導入進む

さらに、「すでに変わっている」「変わると思う」と回答した企業（計683社）に対し、具体的な変化の内容について聞いた結果が以下のグラフである。

最も多かったのが「**多様な働き方を導入した（する）**」の**374回答（回答企業の54.8%）**に及んでいる。さらに「**テレワークを定着させた（させる）**」の296社（同・43.3%）、「**会議や打合せはリモートが可能に**」の266社（同・38.9%）、「**よりIT化を進めた（進める）**」の240社（同・35.1%）など、コロナ禍でITの導入を進める企業が多いことがわかった。

「すでに変わっている」「変わると思う」と回答された方に質問です。

具体的にはどんなことですか？（複数回答可）



その他、選択肢の中で回答が少なかったのが「職場面積を削減した（削減する）」「雇用者数を増やした（増やす）」「雇用者数を減らした（減らす）」であった。コロナ禍において、多様な働き方を導入したり、テレワークが進むなどしていても、それに伴って職場面積の削減や雇用者数の増減に至っている企業は少ないことがわかる。

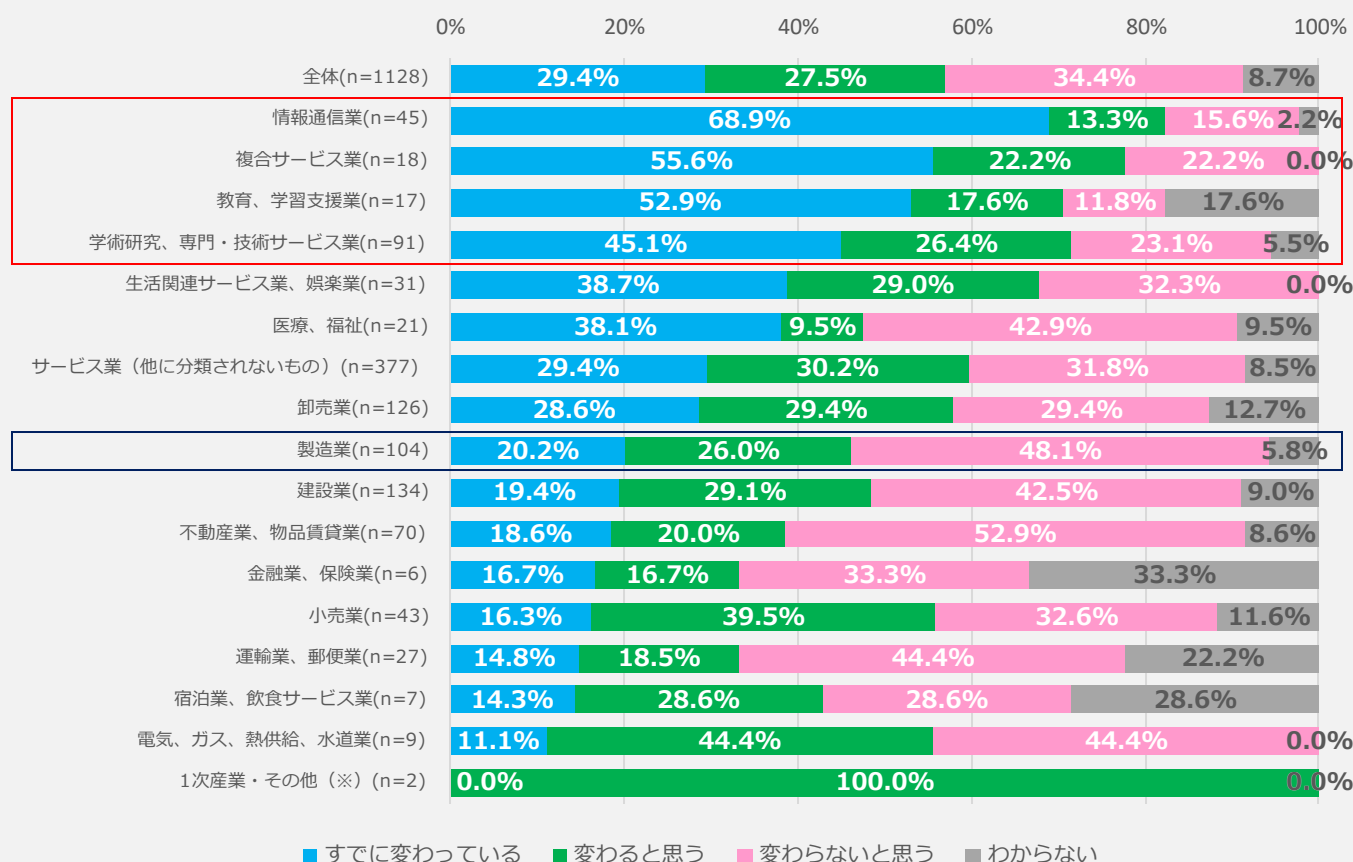
2. 変化に対応しているところは？

社員の働き方や職場環境の変化は、その業務や置かれた環境により取り組みに違いがあるだろう。ここでは、この「変化」について、さらに深掘りした検証の結果を紹介してみたい。

●【業種別】社員の働き方や職場環境の変化の有無について

以下のグラフは、社員の働き方や職場環境の変化の有無について、業種別の傾向を示したものである。「すでに変わっている」が最も多かったのが「情報通信業」の68.9%、次いで「複合サービス業」の55.6%、「教育、学習支援業」の52.9%などの結果となった。これらの業種は、業務の特色から多様な働き方の採用やITツールの導入をしやすい環境にあると言えるかもしれない。

【業種別】社員の働き方や職場環境の変化の有無



(※)「1次産業・その他」：「農業、林業」「漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」の合計
全体n数は、回答企業1239社のうち、業種が判明した1128社に限定

ここで「製造業」について注目してみたい。

ブルーレポートmini9月号で紹介した「新型コロナウイルス感染症による影響の有無（業種別）」では、もっとも影響を受けた割合が大きかったのが「製造業」であった（88.1%）。それに対し、「社員の働き方や職場環境の変化の有無」の調査結果では「すでに変わっている」が20.2%と、平均（29.4%）と比べても低い結果であった。

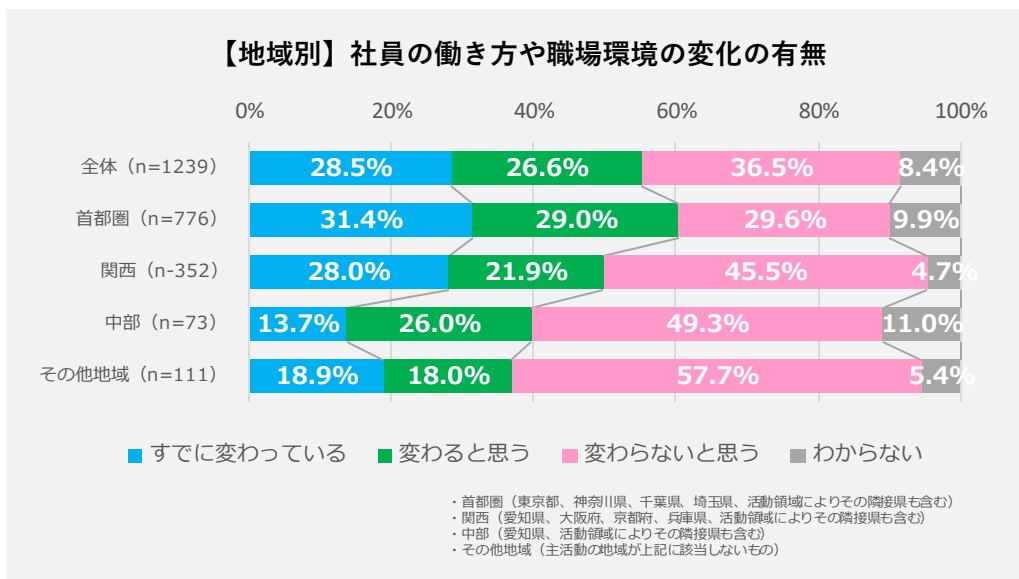
「製造業」は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、時間の経過とともに「影響を受けている」と回答する企業の割合が大きくなったが、社員の働き方や職場環境については変化が大きく見られないことも特徴である。これまでの製造ルートや労働体系の変更をしにくく、かつIT化による恩恵も他業種と比べて受けにくいことが理由として考えられる。社会の変化に対し、一気に変革することが難しい業種であるといえる。

しかし新型コロナウイルス感染症の影響が今後も続く可能性もあることから、いかにこの難局を乗り切り、新たな価値を生む仕組みづくりができるかが、今後の生き残りに向けた鍵になるだろう。

●【地域別】社員の働き方や職場環境の変化の有無について

加えて、ここでは地域によって社員の働き方や職場環境の変化に違いがあるかを見てみたい。

新型コロナウイルス感染症は全国各地に広がり、企業経営への影響も全国に及んでいるのは間違いないが、東京を中心とする首都圏、また関西圏での拡散に注目が集まることが多かった。地域別の結果を見ると、**首都圏で社員の働き方や職場環境に変化があった割合が大きい**ことがわかる。



新型コロナウイルス感染症が拡大して約半年、社員の働き方や職場環境にも変化が見られるようになっている。「変わらないと思う」と回答した企業がまだまだ多い状況ではあるが、感染症の影響はまだ当面は続き、人々の生活様式や企業の事業の在り方も変化し続けると予想される。多様な働き方やIT化促進など、本レポートで示されたような新しいことに挑戦する企業は今後も増えていくのではないかな。

●アンケート実施概要

実施期間 2020年6月9日～9月31日
 回収数 1239社
 実施主体 株式会社フォーバル

アンケート取得方法 対面・電話・メールによる調査
 （感染対策実施の上）
 アンケート対象 全国の中小企業経営者